ナマすば
NAMA
02
SUBA
紅の爆乳娘
Angel's stroke 102
成人指定

Angel's stroke 102
イラスト 弥ぶんし　本文 知多有洋

紅魔族のめぐみんが
ロケットなバストで爆乳ちゃんだった、
これはそんな異世界線のお話し。

何もない里を離れ、きらびやかな街に出た彼女は
たちまちわずかな貯えも使い果たしていた。
ひとかけらの食べ物も買えない。なんとかおカネを稼がないと…。

路地裏で不意に、でっぷり太ったオヤジが声をかけてきた。
精いっぱい虚勢をはり、全力で欲しい金額を言い放った彼女を
オヤジは笑って抱き寄せ、彼女の尖った胸を揉みしだいた。
「んな小遣い銭でいいンか？」
彼女は小さく頷いて、オヤジといっしょに手近な安宿に入った…。

翌朝、ひとりぼっちの寝床に約束よりずっと多い、
見たこともないほどのおカネが残されていた。

それからそのオヤジ「ブーちゃん」は、
彼女にとってのいちばんの客となった…。

第一幕　中年の商人

毎日のようにフーちゃんはめぐみんを欲しがった。安宿のきしむ寝床や、深夜の公衆浴場の片隅で、アイツが飽きるまで何度もセックスした。

宿の女将が売る避妊薬は高価で、いつも品薄だった。性病も怖かっし、寝る相手だけは選んでいた。こんな仕事は長く続けちゃだめだフーちゃんのねっとりした舌先が彼女の大きい双乳をしつこく舐め上げている間じゅう、彼女はぼんやりとそう思っていた。おカネを貯めて早く…。

路地裏でいきなり全裸に剥かれ、彼女は身をよじって抗った。「せめて宿に…」構わずフーちゃんは背後からめぐみんを抱き寄せ、重く突き出す乳房を揉みしだいて柔らかい肉の弾力を楽しんだ。

反り返った太い肉茎の先端は、秘密の割れ目を押し広げて、いきなり一番の深みまで滑り込んできた。「アアッ！」彼女の気持ちとは裏腹に膣肉はすっかり潤っていて、男はすぐに音を立てて激しいピストン運動を始めた

時間がないと言っておきながら、ソイツは彼女のとろけた肉ツボの中心をいつまでも叩き続けた。全身に響く強烈な律動にめぐみんは喘いだ。

「もう、ダメぇ…これ以上…」

「さあイクぞ、しっかりシメろよ！」

いっそう激しくなった突入運動で、彼女のナカから白泡があふれ腿に体液がどろどろと滴った。「んあああああーっ♥」

男は最後の挿入を果たすと、気持ちのいいい膣奥で、熱い孕み汁を大量に放出した。

焼きつきそうな感覚にめぐみんは肉体を強張らせ、中年男の射ち出す精液を最後の一滴まで子宮で味わった。

第二幕　若い冒険者

フーちゃんとの約束がない日は、酒場裏で若い冒険者を待った。冒険が終わる夕方、彼は明るい笑顔でめぐみんに会いに来る。軽く食事して宿へ入ると、とろけるほどたっぷりキスして夜更けまでセックスした。彼はお気に入りの大きな胸を舐め上げ、ざらつく舌先をお腹から鼠蹊部へねっとりと這わせた。

ビクッ

くちゅ…

くちゅ…

恥肉の花弁へ差し込まれた男の舌は、ヌめる肉路を奥まで縦横に味わい、何度もめぐみんの敏感な部分をすりあげた。「んんあッ」

先走りの汁でヌラヌラになった彼自身を
彼女の豊かなバストの谷間に押し付けて、男は
ガンガン腰を振った。長くたくましい肉の穂先が
前へ進むたび、彼女はちろちろとカリのまわりを
ナメしぼった。彼が快感をあびて思わず腰を
ひいた瞬間、めぐみんはその屹立したモノの
先端に吸い付き、深くナマ暖かい濡れたクチで
彼のすべてをやさしく愛撫した。

彼女のクチをひとしきり楽しんで、彼はめぐみんをシーツのうえに押し倒した。張りのある尻肉を掴みあげ、手慣れた感じでバックから彼女のナカにナマで侵入した。「んあっおっきい…」フーちゃんも大きかったが若者のペニスはもっとスゴかった。
ズププ
彼の深く鋭い動きに、ベッドがぎしぎしといやらしく軋む。隣室からも甘い嬌声と荒い息遣いがきれぎれに聞こえている。彼女の桜色に上気した肌はじっとりと汗ばみ、彼の肉槍で突かれるたび、喉の奥から押し殺すような喘ぎが漏れた。
ゼクッ
ゼクッ

とにかく若者はタフだった。壁際にめぐみんを追い詰め、立ちバックでさんざん攻めたてたあとで、騎乗位で下から彼女のナマ汁の滴る膣肉を突き上げた。
「あひんッ、つよい！つよいですよ！」彼は垂れ下がる、汗まみれのバストを掴み「めぐみん、サイコー！」と叫んだ。
そろそろフィニッシュが近いのか、若者は彼女にのしかかり腰づかいを速めた。前回は朝までハメ放題で何度シたのか、わからないくらいだった。
ピクッ
ピクッ
ズズ…
ジュプ
ジュプ

それほど彼の情熱的なセックスは素晴らしかった。
「そらっ最初のナマハメセーエキ、たっぷりとくらえっ」
「ああうんッ、おねがいもう少しぃ！」その瞬間、ふたりは
がっちりと深く唇をかみあわせお互いの舌を吸って、
あふれる快感を浴びながら痙攣するように身を強張らせた
めぐみんの膣奥に達した剛棒の先端から、たまりきった熱
精液がびゅうびゅうと何度も射ち出された。

「アアん…」熱い体液が胎内に広がる
シビれるような感触を味わいながら、
めぐみんは思った。そんなにいっぱい
出されちゃ本当に妊娠しちゃうよぉ…。

第三幕　再会
アクセルの街へ移り住み新しい仲間と出会った。
リーダー格のヘタレ少年は彼女の大きい胸を
いつも盗み見たが荒事はなかった。そんなとき、
街でアイツと再会した。「もうウリはやってない
と拒んだが、かまわず無人の倉庫裏に連れ込まれ
ズイ…

せかされるまま、むせるようなオスの臭いのする男性器にくちづけし、血管が浮き出る竿の全部を一気に飲み下した。頭を何度も前後させながらクチでソレを吸い上げ、ヌめる舌で敏感な部分を舐め上げた。手で根本とナッツをもみこむと男の部分が急に跳ね上がった。
「おおう、いくぞっ」「んんうッ」あっと言う間に中年男は、旅の間にたまりきっていた孕み汁を少女の生暖かいクチへたっぷりと放出した。
気がつくと、離れた小路を仲間
少女たちが歩いていた。
ああん、みつかっちゃうっ！
フーちゃんは構うことなくバッ
からめぐみんを犯し続けた。

バックで散々突かれ快感のスポットへの刺激を浴びて、めぐみんもトロトロになっていた。
「お願い、もうイかせてぇ！」
「いいぞ！これからもお前はオレの女だ！」
ビクッ
めぐみんの濡れそぼった肉の深みに肉棒を突き立て、フーちゃんはタマリきった白濁をどくどくとたっぷり発射した…。
ドピュ
終

Angel's stroke 102
AXZ PRESENTS ANGEL's STROKE SERIES

■編集後記

魅力たっぷりなキャラクターたちがストーリー所狭しと大暴れの「○のすば」で、異彩を放っていた紅魔族の少女、めぐ○んが巨乳ロケットバストのイケてる女の子だった世界線のお話しを、柔らかい輪郭で素敵なイラストばっちりの弥ぶんし氏のイラストでお送りいたします。いろいろ楽しんで読んで頂ければ幸甚です。
（今回は陥没トップで攻めてみました！）
このす○、新しいTVシリーズまた始まるといいなあ…。

（次回のイベント予告）

次回は2017年秋のCOMIC1☆12へ参加申込み中です。新刊テーマはFate桜本の見込みです。こちらも楽しみ…。

●奥付 AXZ
●発行日 2017年8月12日
●発　行 サークルAXZ（アクシツ）　編集 知多有洋
●連絡先 crs@mwc.biglobe.ne.jp
●印刷 株式会社プロス

●成人指定の同人誌は、成人が精神的に楽しむための技術的手段であり、その成果です。未成年者や、エロに嫌悪感のある方々の目に触れる事の無い様、ご注意下さい。
●この本の内容の一部または全部を弊会に無断で転載しないで下さい。よろしくです。
●弊会と皆様が参加する同人界が永続できるよう、皆様のご協力を心より真剣にお願いいたします。

This publication is for adult readers.
The following acts are prohibited:
Unauthorized reprinting and/or reproduction,
uploading the contents to the Internet,
showing, sales, and/or dissemination of this work to minors.

Angel's stroke 102

AXZ PRESENTS Angel's stroke SERIES